

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がすぐ目に入るように玄関や休憩室、トイレなどに掲示し、日常の業務中にも意識して取り組めるよう心掛けている。	地域に密着した生活を送ることを取り入れた、事業所独自の理念が作成されています。日々目に付くよう、各ユニット・職員用トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、新入職員研修でも理念を研修する機会を設け、理念の実践に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にも、事業所で主催した行事に参加していただいている。また、お祭りなど地域の行事にも参加して交流を図っている。	事業所広報を地域に回覧したり、地域の方から野菜を頂いたり、お茶を飲みに来ていただいたりしています。また、地域のお祭りに参加したり、小学校の運動会にも見学に行くなど、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の親睦会に職員が参加し、認知症に関する話題が出た際に、積み上げてきた経験を通して学んだことを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催し状況報告を行い、それに対しての意見をいただいたり話し合い、改善に努めている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表・ご利用者へ出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、市の現状を聞いたり、意見を頂戴しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない時は、説明してご家族からの同意をいただいているが、拘束しないことを基本としている。	ご家族の要望でやむを得ずベッド柵をご利用されている方もいますが、玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。	身体拘束に関する承諾書をご家族より頂いていましたが、身体拘束の内容が記載されていない承諾書もありましたので、確認されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して学んでおり、防止に努めている。	身体拘束同様に職員会議や新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会をもち、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明を行い、不安や質問等について確認し合いながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の関わりの中で、ご利用者の要望をお聞きしている。ご家族の意見は面会時やサービス担当者会議などの時にお聞きしている。	運営推進会議やホームの行事の際にご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、面会時のやりとりでご家族から頂いた意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有するようにしています。	調査時点で玄関に意見箱が設置されていましたが、記入用紙が置かれていませんでした。また、ご家族との交流の機会が以前に比べ少ないと感じましたので、職員と検討の機会を設けられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている部署ミーティング時や、年に2回の個別面談時に聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議も内容を職員に事前に周知し行われています。年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	年に2回の個人面談のスケジュールも予定の日程の中で進められるように改善されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より毎週報告を受けたり、定期的に事業所にも足を運んで職員の意見をくみ取り就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加による他事業所職員との交流や、法人内の研修でも他部署間で意見を交換する機会を作り、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との会話や行動から、要望や悩みなどをお聞きしたり、察したり、話しやすい環境を作ることに配慮しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や悩みなどを言い易い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見要望を尊重しながら、サービス担当者会議で必要としていることを話し合ったり、他のサービス利用にも活かせるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのご利用者が行えることを見つけ出し、役割を持っていただき、共に支え合いながら生活している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお便りを発行している。また、行事への参加を促したり、面会時や電話での報告、連絡、相談し合いながら関係を密にしている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、ホームの広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のありがたい会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に自宅への外泊や旅行に出かけるご家族もおり、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	調査時点で事業所広報の送付が計画通りにされていなかった期間もありましたので、定期的に送付されることを期待します。また、毎月職員からお送りしているお手紙の内容についても、職員間で記入内容の検討が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が手紙や年賀状のやり取りを行ったり、電話でプレゼントのお礼を伝えたりする機会を促しながら、関係が途切れないよう支援している。	センター方式を採用し生活暦をより把握するようしており、知人の方に面会に来て頂いたり、ご利用者の要望に応じて出身地域にドライブに出かけるご利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席を配慮したり、共同で行う作業やレクリエーションなどを通してご利用者同士が声を掛け合いやすいような環境を整え支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退去されている方のご家族が時折ボランティアに来て下さり、交流が保たれている。これからもこの交流の機会を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意見や希望を大切にしながら、ご家族の意見もお聞きして支援している。	ご利用者やご家族からの意向も面会時等で確認するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族にお聞きしている。また過去に利用してこられたサービス事業所との情報のやり取りを通して把握に努めている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	調査時点でセンター方式の書類が作成されていなかったり、見直しがされていない方もいましたので、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加更新されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日の様子を記録し、心身の状態に特別な変化があった場合には特記事項として記録したり、職員間の申し送りで情報を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるミーティングでご利用者の今後の課題や対応について話し合い、意見を出し合いながら介護計画作成につなげている。	毎月行われているユニット会議において各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。定められた期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	調査時点で介護計画の見直しが遅れている方もいましたので、定期的に確認する機会を設け、予定に添って見直しが行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態や様子を個別に記録し、申し送りで確認し合いながら情報を共有している。またミーティングなどでも十分に話し合い、介護計画の見直しにもつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で話し合い、今まで行っていなかったサービスが必要となった場合はご家族にも相談、確認しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に何度か地域のボランティアの方が来所されるのをご利用者様が楽しみにしておられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際に、ご利用者の状態を記入した医療連携表を用いて医師に伝えている。また必要な場合には職員も同行している。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面にてご利用者に関する情報伝達が行われています。また、ホームに往診に来ていただいたり、状況に応じて職員が同行し受診支援を行うこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護師と連携して指示やアドバイス等受けている。その内容に関しては、ノートにまとめながら職員間でも共有し、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病院を訪れ情報交換を行っている。退院後の対応方法などについても病院関係者と情報交換を行い、職員間でも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応できることと、対応が難しいこととお伝えし、出来る限りの支援を行いサービスの向上を目指して取り組んでいる。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なければ最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修で、応急手当や救急搬送の流れについての訓練を実施している。また外部の講師からAEDの使用法や心肺蘇生の方法を学んでいる。	法人内でもAEDの使用法や救急対応シミュレーションについて研修の機会を設けているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への周知・徹底もされており、緊急時に適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の火災を想定して、消防署の立会いのもとで避難訓練を実施している。その際に消火器や通報装置の使用法も確認している。	ホームにおいて、年2回の日中や夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、地域の方にも参加して頂き、災害時に協力して頂けるように努めています。	災害時に適切な対応ができるように、緊急連絡網を使用した訓練も行われることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴や性格等を考慮し、お一人お一人に適した言葉かけや対応を心掛けている。個人情報には人目につかない様取り扱っている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、職員の接遇についても振り返る機会を持ち、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	ご利用者の写真を広報に掲載する等の同意内容については、書面で同意書を頂けるように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の判断能力や意思表示方法に応じて対応している。身振りや表情に注意して、ご本人が自己決定できるように話しやすい環境を作り、声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおよその日課は決まっているが、それ以外でもご利用者個々のペースに合わせて、居室での一人で過ごす時間を大切にしたりして自由に過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでいただいたり、好みの色やおしゃれについてご本人やご家族に聞くようにして、個々に合わせた支援を行っている。事業所へ美容師に来てもらい、散髪の際も好みをお聞きしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から味付け、味見、食材の買い物などご利用者の能力に応じた参加の場面を作っている。ご利用者の好みを把握し、メニューに反映している。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、食事の片付けも協力してもらっています。また、ご利用者の要望に応じて外出に出かけたり、ホームの畑で育てた大葉、キュウリ、ししとう等の収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入している。体調に応じた食事形態の変更や工夫を行い、バランスの良い栄養や水分摂取量に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔を促す声掛けを行い、必要な方には付き添って支援し、清潔の保持に努めている。義歯を使用している方は毎晩洗浄剤で消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間に尿失禁のある方には、定時にトイレに起きることを促す声掛けを行い、支援している。	全てのご利用者に対して水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後にお茶やミルクを飲んでいただいたり、日中の飲み物も数種類用意して好みのものを飲めるよう配慮している。合同で行う体操に参加していただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、声をかけご本人の入浴したいタイミングを見極めて入っていただいている。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠い時にはご自分のお部屋で休むことができるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった時には申し送りとノートで職員全員が把握できるようにし、ご利用者のその後の変化を記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターでの花の栽培、以前マッサージ師をしておられた方がマッサージしたり、好きな有名人のポスターを居室に飾ったり日常生活を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所へのお散歩や、食材の買い出し、回覧板届け、ゴミステーション清掃など外出支援を行っている。毎月家族と外食に出かけたり、外泊している方もおられる。	ご利用者の誕生日には担当職員とドライブに出かけたり、季節に合わせてお花見やぶどう狩り、紅葉見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理は行っていないが、一緒に買い物に行った際に、ご家族よりお預かりしているお金で、おやつや日用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字の書ける方にはご家族との手紙のやり取りが行えるよう支援し、一緒にポストに投函している。要望に応じて電話を掛けたり、贈り物があった時には気持ちを電話で伝えられるよう促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観賞魚を飼育し、眺めたり餌をあげたりしてご利用者も喜ばれている。入浴の時には入浴剤を使用し、気持ちよく入られるよう配慮している。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要望に応じて自由に居室で過ごせるように配慮している。気の合ったご利用者同志で過ごすことが出来るように食事の席もその日によって配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使い慣れた食器や家具、ほろきやちりとりなどを使用している方もおられ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	ご利用者の愛用していたラジオや人形などの持込みや写真の掲示など、一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全盲の方が自室からトイレまで安全に行けるように手すりの代わりに椅子を並べて、ご自身で安全に移動が出来るよう工夫している。		